

日本YMCA同盟

THE  
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.816 2022

2022年5月1日発行（毎月1日発行）  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円（外税）（送料63円）  
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号  
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641  
URL : <https://www.ymcajapan.org/>  
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

## ここは 自分を出していいところ 不登校、楽しんだっていいんじゃない？

神戸フリースクール代表 田辺 克之

アメリカから来た知人に「アメリカには不登校ってないなあ」と言われたことがあります。アメリカではカトリック系のミッションスクールに行く子もいれば、イスラム系の子どもが通う学校、市民が作ったオルタナティブな学校、またフリースクールやホームスクーリングという学び方もあり、たくさんの選択肢の中から自由に自分に最適な学び方を選べる環境があるそうです。そのため、不登校ということを知ったことがないということでした。

多様性の時代に、日本は教育の多様性が一番遅れているのではないかと思います。文部科学省が2021年10月に発表した調査によると、小・中学校における不登校の児童生徒数は19万6,127人と過去最多であり、これはずっと増加し続けているのです。

5年前に教育機会確保法という法律ができて、文部科学省は「今や学びは学校だけではない。多様な学びが必要である」と示しています。つまり、不登校の子どもを学校に戻さなくていい、いろんな学びがあってもいいと言出したのです。これに現場の学校は大変に慌てました。今までは、子どもを学校にとにかく戻すことが仕事だったので、何をしてもいいかわからないという状態でもあるようです。今まさに、フリースクールの立場からいえば、教育の世界にある意味で、新しい学びが始まることになったと言えると思います。

分散登校やリモート授業が続いているこの時期に、学校をフリースクール化してはどうか、学校の中にフリースクールを作ってはどうかと提案したいです。フリースクールは子どもが中心です。私は1990年にフリースクールを始めて32年になります。学校へ通えなくなった子どもの居場所をなんとか作りたから、私の塾を朝から解放してくれないかという保護者からの要望が、フリースクールとの関わりのはじめでした。塾の時間以外は、保護者を含めたご近所の方々に鍵の管理をお願いすることからスタートしました。地域のみなさんのつながりが、子どもたちが安心して過ごせる居場所を作ったのです。フリースクールでさまざまな経験をしました。子どもの力をみくびってはいけません。どれくらい子どもの力を信じていますか？自由に発言する時間は子どもたちにありますか？子どもたちが決めて、子どもたちが行動する。それを見守る余裕が今の学校にありますか？

授業についていけなくて、あるいは興味がなくて、ずっと寝たふりをして机に頭をくっつけている子どもが全国に、何人いるのでしょうか。そういう思いをしている子どもたちを、学校から解放してあげてほしいのです。うつぶせになっている時間も、本来ならその子にとって輝いていい時間なんです。そのために、学校だけでは多様な学びに移行させたいのです。学校で一律、均一な行動に押し込めるのではなく、自分で考え、行動すること、それを見守る地域とともに、僕はこれからも子どもたちとともに関わっていきたくと思っています。

YMCAピンクシャツデー 2022講演会「ネット社会に生きる子どもたち」より（2022年2月2日開催）

新生活を  
みんなで応援！

全国のYMCAで実施中～Amazonみんなで応援プログラム  
「新生活応援ほしい物リスト」を応援してください。



全国のYMCAで実施している「Amazonのみんなで応援プログラム」は、「ほしいものリスト」というWeb上の仕組みを活用して社会貢献・寄附活動を行うもので、2020年11月のスタート時より、23のYMCAが参画しています。2021年末のクリスマスには「みんなでサンタクロース」という期間限定キャンペーンで全国のYMCAに1,500件を超える贈り物が届けられました。

3月からは、新年度に合わせて「新生活応援」キャンペーンを実施しています。それぞれのYMCAが4月から新生活を迎える子どもたちやユース、留学生を応援するための「ほしい物リスト」を公開しています。ぜひ、ご協力をお願いいたします。



「新生活を応援」  
特集

[https://www.ymcajapan.org/newlife\\_ouen/](https://www.ymcajapan.org/newlife_ouen/)

～10万人の子どもたちにとびきりの笑顔を「みんなで応援」～

## 茨城YMCA 子育て相談センターぶどうの木がオープン 孤立を防ぎ、ぶどうの木のつるが木にまきつくように

茨城YMCAは、つくばの地で30年来、子どもと子育て家庭に寄り添い、伴走してきました。このたび4月より、全国のYMCAからもご協力いただいた「みどりのみらい募金」および、独立行政法人福祉医療機構「子供の未来応援基金（未来応援ネットワーク事業）」を活用し、新拠点みどりのセンター本館にて相談支援事業「子育て相談センターぶどうの木」を開始しました。

つくば市をはじめとした茨城県南地域は、つくばエクスプレス沿線の開発の影響から近年子育て世帯が急増しています。それに伴い、子育てに悩み孤立してしまう子育て家庭が少なからずあります。

私たちが新たに始めた子育て相談センターでは、カフェのような空間でリラックスして、子育てに関する幅広い悩みごとの相談ができる場所を設けます。また、みどりのセンター本館には広々とした芝生があり、保護者が相談している間も、子どもたちはリーダーと一緒に楽しく遊ぶことができるため、お子さんと一緒に来館でも安心です。



全国のYMCAは、子育て・子育て推進会議（アフタースクール、教育・保育、発達支援）の各事業等の強化を推進しています。茨城YMCAも「子ども子育てといえばYMCA」という存在になれるよう、包括的に子どもと家庭に伴走していくことを念頭にこのプログラムを立ち上げました。私たちは、この子育て相談センターを通じて、より安心していただける環境で、より包括的に、子育て家庭や地域のコミュニティに寄り添っていきます。

茨城YMCA 青山 夏樹

## 名古屋YMCA 120周年を記念し、 三河地域に「かりやYMCA保育園」新設

今年4月、名古屋YMCA 創立120周年記念事業の一つとして、愛知県三河地域に「かりやYMCA保育園」が開園しました。名古屋YMCAでは約80年の歴史を刻む南山幼稚園に始まり、これで4か所目の子育て子育て支援の拠点となります。



刈谷市は人口約15万人、トヨタグループの主要企業が軒並み本社を構える自動車工業都市です。かりやYMCA保育園は、その刈谷市の子どもたちを長年育んできた市立幼稚園跡地に隣接地を加えた6186㎡（約1874坪）に新しく建てられた定員135人の認可保育園で、木造平屋の園舎・園庭のほか、ダイナミックな活動の場としての第二園庭（グラウンド）や送迎用駐車場も備えています。

刈谷市では公益財団法人名古屋YMCAが、温水プールを中心とした健康増進施設「ウォーターパレスKC」の指定管理者としてその運営の一部を担っており、新たにかりやYMCA保育園が与えられたことにより、地域における子育て子育て支援の働きがより広がることを目指しています。

とはいえ、生まれたばかりの保育園、よちよち歩きからのスタートではありませんが、子どもたち・保護者・保育者・地域のサポーターなど、かりやYMCA保育園に集う全ての人々が神に愛され、共に生きる豊かなコミュニティへと育つことを願い、祈りを共に歩みを進めたいと思います。

かりやYMCA保育園 橋本 啓

## ウクライナから日本へ YMCAネットワークで避難をサポート

「娘が暮らす日本へ避難したい」。ウクライナ東南の都市クレメンチュクに住むティアナ・ロパテンコさん（64歳）の声を聞き、ポーランドYMCAとヨーロッパ同盟、日本YMCA同盟とが連携。約2週間をかけて計10,000キロの移動をサポートして3月18日、無事に日本に迎え入れることができました。その後ロパテンコさんから、感謝のメッセージをいただきました。

日本YMCA同盟では引き続き、ヨーロッパYMCA同盟と連携し、日本に避難を希望する方々にそのビザ申請や移動・滞在などのサポートを行なっています。詳細はホームページでご確認ください。

### いつかきょうまくいく（いつかきょうウクライナになる）\* | ティアナ・ロパテンコ

日本に住む娘から電話があり、YMCAが日本への渡航支援を申し出てくれていると聞いたとき、私は「そうしましょう」と答えました。そのためは、まず隣の国まで行き、その国の日本大使館でビザを取り、飛行機に乗る必要があります。ポーランドを経由することにしたのは、それが最も辿り着きやすい経路だったからです。私はバスターミナルに行きました。リヴィウ行きのバスの座席予約をそこで受け付けており、運賃は1,900フリヴニャ（訳注：約7,600円。ウクライナの平均月収は約4万円）でした。私は席を予約し終えると、出発に向けて荷造りするために一旦帰宅しました。必要最低限のものしか持ち出すことはできないと思い、結局リュックサック一つ分の荷物だけを背負って出発することになりました。

翌朝、心の中で我が家に別れを告げました。私の暮らすクレメンチュクは工業都市のため、ロシア軍が市内の工場を爆撃し始めたら私の家にも被害が及ぶ可能性があり、私の帰る場所がな

くなるのは時間の問題でした。長時間かけてバスは走り、通常12時間のところ、25時間もかかりました。25時間を超える道のり、そして、もしかしたら次の瞬間、バスに爆弾が落ちてくれば、この世から自分があとかたもなく消えてしまうかもしれない、という恐怖。途中、軍の検問所やバリケードを何度も通過し、戦車を脇目に見つつ、書類のチェックを受けました。ほんの数日前まで美しかった私の国が廃墟と化していくのを目の当たりにすることはとても恐ろしく悲しい気持ちでした。

ポーランドではYMCAのスタッフが出迎えてくれました。ポーランドでの私の滞在はもちろん、書類の準備やビザの取得にいたるまでずっと私をサポートしてくれました。ワルシャワに来た当初は、飛行機の音で目が覚めると、空襲警報が聞こえたのではないかと、防空壕に逃げ込まねばならないのではないかと、飛び起きてしまう日々でした。ポーランド滞在中で一番大変だったことは、ひたすら待たねばならないことでした。しか

しその間、YMCAのスタッフやその仲間たちが、いかに親切に私を支えてくれたかについて、ここに記さずにいられません。短い時間ではありましたが、記念写真まで撮るほどに私たちの間には友情が築かれました。

今ここ東京で、私はウクライナで起こっている恐ろしい日々から、徐々に自分を取り戻しつつあります（最初の数日はまだ思い出だけで自然と涙が流れましたが）。今後どう過ごしていくべきかまだ分かりませんが、今は小さな孫娘の子守りをして過ごしていま



す。《いつかきょうまくいく（いつかきょうウクライナになる）》日が来ることを祈っています。

\*《いつかきょうウクライナになる》は《いつかきょうまくいく》という意味を表すフレーズです。  
\*内容を要約しています。全文は日本YMCA同盟Webサイトでご覧いただけます。

